

今手元に「夜の豹」という、ジャズと全く関係なさそうな、なんかヤバそうなタイトルの映画DVDがあります。これ実は、リチャード・ロジャース（作曲）、ロレンツ・ハート（作詞）の黄金コンビによるミュージカル作品「パル・ジョーイ」を映画化したものなんです。

スタンダード曲のクレジットには、作曲家、作詞家の名前は必ず入っていますが、ミュージカル挿入歌の場合、その舞台の名前も書かれていることが少なくありません。このDVDを買ったのも、スタンダードの名曲が幾つか入っていたという記憶がある「パル・ジョーイ」タイトルにネットで行き当たり、大好きなフランク・シナトラ主演ということもあり即ポチッとしました。

ところが想像していたのはかなり違う内容に驚き、スタンダード曲とそれを生んだミュージカル、ジャズの関係について色々考えさせられたので、今回と次回は、そこを解説してみたいと思います。

スタンダードのほとんどはブロードウェイ・ミュージカルの挿入歌ですが、舞台そのものを見ることができません。パル・ジョーイについて言えば、東宝が日本人キャストで上演したことがあります。今ではこのDVDでしかストーリーや原作の雰囲気をつかむことができません。

なぜパル・ジョーイ（友達のジョーイ）が夜の豹になるのか、邦訳のセンスに問題はありますが、ストーリーを解説するうちにお分かりいただけるかもしれません。

ミュージカル上演当時のポスター

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/paljoeyposter.jpg>

映画版DVDのジャケット

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/yoruhyou.jpg>

まず、挿入歌の一つである「Bewitched, Bothered & Bewildered」というスタンダード曲を聴いていただきます。POPS出身のシンガーですがはスタンダードを歌わせても素晴らしい歌唱力で魅了するリンダ・ロンシュタット(Linda Ronstadt)の音源を選びました。アレンジはフランク・シナトラのアレンジでも有名なネルソン・リドルだけに、スタンダードの魅力、ロンシュタットの声の魅力を最大限に生かして素晴らしいです。
<https://www.youtube.com/watch?v=wyaZdAEmsU>

歌詞は以下のようになっています。ジャズシンガーもほとんどこの歌詞で歌っています。愛する男性に惚れぬいてしまって夜も眠れず、冷たくされても17歳の娘のように、魅了され(bewitched)悩まされ(bothered)惑わされる(bewildered)、そんな女性の恋心を歌っている内容です。英語が得意でない人もロマンチックな歌詞であることは想像できると思います。美しいメロディに甘い歌詞、これぞ典型的なラブソングでしょうか。
<https://petitlyrics.com/lyrics/1557870>

ところがです。DVDを見ると、随分違うイメージが出てくるのです。このミュージカルは1941年、ブロードウェイで、当時大人気だった歌って踊れるジーン・ケリーがジョーイ役で初演されましたが、ストーリーは酷評されました。ニューヨーク・タイムズの演劇批評では「醜悪なストーリー」だと書かれ、ロジャース自身も「観客は石にでもなったかのように啞然としていた」と回想しています。

ジョーイは安っぽいジゴロで、どこへ行っても女性を巡るトラブルが絶えないシンガー兼司会者。リンダというダンサーの女性に気を惹かれながらも、セレブ未亡人のヴェラを誘惑して念願だった自分の店を持つと目論みます。手練手管を弄して開店にまでこぎ着けたものの、自分を独占しようとするセレブに嫌気がさして別れ、リンダと一緒にしようと決める。簡単に書けば映画版はこういうストーリーです。

ジョーイの狡さや欲望、ヴェラの独占欲などがむき出しになっている感じがあり、自分的にも好きなストーリーではありません。こういう人物とはパル（友達）になりたくない

と思っけてしまひますが、こひいうタイトルがつくにはネイティブでなければ分らない皮肉が込められているのかもしれない。

それまでのミュージカルは、ジョーイのようなアンチヒーローは登場しなかつただけに、当時のブロードウェイの観客にとっての衝撃は大きかつたのでしよう。その後、社会情勢や価値観が変わり、1952年に再演された時は542回という大ヒットとなりました。人格が破綻しているような主人公や、彼のダメンズぶりを分かりつつも情事にのめり込んでいくセレブ女性。第二次世界大戦という激動を経て、そんな退廃的なストーリーを、アメリカ人は受け入れるようになったということかもしれません。

この曲はセレブ未亡人のヴェラによって歌われます。ジョーイが自分に寄ってくるのは財産目当てと分かつていながら、ジョーイの魅力にメロメロになってしまいます。DVDでセレブ役のリタ・ヘイワースが歌うシーン（アン・グリアという歌手が吹き替えているようです）がyoutubeにあったので御覧ください。ベッドの上やシャワーを浴びながら歌うという、性的なほのめかしもあって、ロンシュタットの歌にはない背景が見てきます。
<https://www.youtube.com/watch?v=GIpQggPOWvI>

ロレンツ・ハートがつけた歌詞は、かなり際どいといひか露骨です。ロンシュタットが歌っている歌詞には含まれていませんが、ミュージカル初演時の歌詞はずつと長く、「obersexed」とか「ants invaded my pants」などの、スタンダードでは見たことのない言葉が使われています。実はエラ・フィッツジェラルドはこの歌詞で歌っています。
<https://mojim.com/jpy101790x26x79.htm>

スタンダードソングをシンガーが歌うスタンダードを最初に聴く時、多くの日本人は歌詞まで理解して聴くことは少ないでしようから、こひしたストーリーや背景を知つた時に、「こひいう歌だつたのか！」と驚くと思ひます。自分はこひうでした。

以前のメルマガでも、スタンダード曲の名演を聴いてから、曲が歌われたミュージカルのシーンを連想するのは難しいと書いたことがあります。「They Say It's Wonderful」といひアーヴィング・バーリンが作曲した美しいバラードがあり、ジョニー・ハートマン(vo)が歌つたCDを聴いて好きになりました。何十年も経つてから、ミュージカル「アニーよ銃を取れ」の中で歌われたシーンを映画化されたDVDで見て驚きました。
<https://www.youtube.com/watch?v=w9x0v8r3-XU>

都会的で洗練された雰囲気曲とおもいきや、少し前まで田舎娘丸出しのじゃじゃ馬だつたアニーが、初めて恋心を抱いたガンマン興行一座のヒーローに「恋つて素敵なものだつていひわね」と聞かシーンで歌われます。しかも興行一座が移動する汽車のデッキといひ全くロマンチックでない場所です歌われていました。

これが何を意味するでしようか。ミュージカルといひいう娯楽舞台の中で歌われる曲は、歌詞と一体となつてストーリーにいひわば奉仕するのが宿命です。ストーリーが純愛物語であらうと、ジゴロとセレブ未亡人の欲とエゴにまみれた？愛憎がテーマであらうと、曲はそのストーリーを引き立てることが求められます。そして、ミュージカルの上演が終われれば、それとともに忘れ去られてもおかしくない宿命を持っています。

しかし、曲の素晴らしさを評価したジャズやPOPSのミュージシャンが歌い、ジャズのインストミュージシャンが取り上げて、アドリブを乗せて演奏し始めると、ストーリーへの奉仕といひいう軛から放たれて新たな生命を吹き込まれます。特にインストでの演奏は歌詞からも離れて、素晴らしいアドリブを可能にするコード素材としての魅力を発揮し始めるのです。歌われたシーンを想像するのが難しいほど洗練され、芸術的な深みにも達します。

それがジャズといひいう音楽の素晴らしさであり、我々が現在これだけたくさんの文化遺産ともいひべきスタンダード曲を楽しめるのも、ジャズミュージシャンのおかげです。現在まで残っているスタンダードよりはるかに多いミュージカル挿入歌の中から、ミュージシャンが優れた目利きによつて曲を選び、取り上げてきたからこそ、スタンダード曲は現在まで忘れられることなく歌われ、演奏されつてきたわけです。

[Lydianメールマガジン ミュージカルから抜け出したスタンダード1.txt]

次回に続きます。